

2013.10.26 付

「梅岩」マットに違和感

亀岡市・満林 俊宏(僧侶・75)

JR亀岡駅を乗降するたび、石門心学の祖・石田梅岩の像に出合える。講舎で道徳の実践を説く姿である。こころの学問「心学」は1729年、現在の京都市・車屋町通御池上ルで開講して以来、全国169の講舎が開かれた。現在の京都芸術センター(室町通蛸薬師下ル、旧明倫小)は、石

たちにも知られることになった。しかし、この「しんがくん」をデザインした玄関マットが駅前商店街に登場したのは、さすがに驚いた。

滋賀県では藤樹神社まであるという「こころの学問の師」を、いくらキャラクター化してあるとは言え、玄関マットにして土足で踏み込むには違和感がある。商魂で心の学問が踏みこじられているようで、悲しい。

いま一度「心学」学ぶ時

北区・長野 享司(漢籍塾経営・60)

石田梅岩の玄関マットの投稿を読み、いろいろ考えさせられました。ゆるキャラとはいえ、顔を踏むことに抵抗があるのは、人として当然だと思います。作った人は、悪意があったことではなく、梅岩の顕彰や地域振興に資する思いだったでしょう。この一件は、石田梅岩の教えを学ぶいい機会、と前向きにとらえたいかがでしょう。単に名前を売り出すだけでなく、その「教え」をこそ、顕彰すべきです。

梅岩の「心学」は、文字通り「こころ」を学ぶ教えです。丹波聖人と呼ばれ、商人の道を説き、今も京都の商家に多大な影響を与えています。その「正直・勤勉・儉約」のこころを忘れて利潤追求に走った人々、は、ことごとくのれんを下ろして消えていきました。

顕彰する立場の人が商売のために利用することは、教えに背くものです。亀岡の人も京都の人も、いま一度「心学」をしっかりと学ぶ時だと思います。

2013.11.5 付